

同じ月十一日に、さだいじんたちばなきやう左大臣橘卿、うだいべんたちひの右大弁丹比  
くたひとまひと国人真人の宅に宴する歌三首

四四四六番

我がやどに 咲けるなでしこ 略はせむ ゆめ  
わ はなち さ まひ  
花散るな いやをちに咲け

四四四七番

賂しつづ 君が生ほせる なでしこが 花のみ訪  
まひ きみ お はな  
はむ 君ならなくに

四四四八番

あぢさゐの 八重咲くごとく 八つ代にを いま  
あぢさゐ やえさ や よ  
せ我が背子 見つつ偲はむ